

令和6年度

「附属学校園の課題等に係る調査」報告書

2025年3月31日

全国国立大学附属学校連盟 調査委員会

令和6年度 全国国立大学附属学校連盟・調査委員会「附属学校園の課題等に係る調査」

昨年度の調査委員会では、調査結果の活用を重視し、「先生方が働きやすく、生活しやすくなるための情報の集約・活用」をねらいとして調査を実施いたしました。この調査は、教員の業務環境の改善、学級定員、連携・支援体制に係る大学や教育委員会との連携、入試・公開研など、多岐に渡る項目を設定し、各校にご協力いただきました。

今年度は昨年度調査を活かしながら、下記のように調査項目を精選し、調査を実施いたしました。ご多忙の中、本調査にご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本調査が国立大学附属学校園の課題解決のために必要な対話・議論のきっかけづくりとなり、教職員の皆様のWell-beingに少しでも寄与し、子どもたちの教育の充実につながることを願っております。

【調査方針】

- 1 子どもたちのWell-being実現を支えるのために必要な教員の業務環境づくりに資するという点について重視するとともに附属学校園の地域への貢献が強く求められていることから、貢献の度合いを定量的に示すことができるような調査を実施する。
- 2 同じような結果になると思われるあまり発展性がない項目の洗い出しを行い、経年で追う必要性があると思われるものについてのみ調査を継続していく。
- 3 学校の負担にも配慮し、調査項目を絞り、必要に応じて補足・追加の調査項目を設ける。
- 4 これまでの調査結果を生かすため、令和元年度、5年度調査結果も必要に応じて掲載し、今後の動向がつかみやすい形でデータを示すように報告書を整理する。

【調査項目について】

- | | |
|--------------------|----------------|
| 【1】附属学校と大学との連携について | 【2】交流人事等について |
| 【3】教員の勤務上の課題について | 【4】教員に対する支援体制 |
| 【5】地域との連携、地域貢献 | 【6】入園・入学選抜、公開研 |

「【1】附属学校と大学との連携」と「【4】教員に対する支援体制」については附属学校園のこれまでの取組の推移がわかるように令和元年度と昨年度のデータも含めて整理した。

「【2】交流人事等」については、大学採用・交流人事に係る課題と対応について各学校園の具体的な事例をできる限り示し、取組の参考となるように配慮した。

「【3】教員の勤務上の課題」については昨今の附属を取り巻く厳しい環境を反映して項目を設定し、結果についても昨年度との比較・推移がわかるように示した。また、部活動改革については、新たな取組事例も見られることから、調査内容を追加し活用しやすい形でまとめた。

「【5】地域との連携、地域貢献」「【6】入園・入学選抜、公開研」は、定点調査项目的な位置付けで、できる限り共通性の高い項目に絞って設定した。また、【5】については3,720名の教員の協力をいただきながら、地域貢献活動を定量的に示した。

以上の内容と、全附連事務局から提供いただいた学校番号を含む学校情報や昨年度の実態調査報告書とを組み合わせ、校種ごとに、また、必要に応じて前回調査との比較・分析を行った。

【実施上の留意点】

調査に先立ち調査委員会では回答のシミュレーションを実施した。その結果、入力に係る時間（目安）は、単純に質問項目を読んで入力するだけならば、30分から1時間程度であったが、回答のためにさらに調べなければならない時間を要するため、負担軽減の視点から、調査の手順を示し少しでも調査の集計が効率化できるよう配慮をした。（調査票については最後に掲載する）

【調査方法】

○調査対象

2024年度の全国国立大学附属学校連盟の幼稚園（こども園も含む）、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、義務教育学校

○調査方法

Google Formを活用した回答票を活用し、2024年11月27日から12月20日に実施した。

○分析対象

期日までに回答があった211校園（回答率83%）

※ 54大学 211校園

幼稚園	46園（こども園含む）
小学校	56校
中学校	54校
高等学校	10校
中等教育学校	3校
特別支援学校	33校
義務教育学校	9校